

CONTENTS

■Report1「グリーン購入フォーラム2010in滋賀」…… 1	■Report4「グリーン購入講演会in甲賀」…… 6
■Report2「びわ湖環境ビジネスメッセ2010」…… 3	■Report5「グリーン購入シンポジウムin滋賀」…… 6
■Report3「グリーン購入セミナーin琵琶湖博物館」…… 4	■エコに学べ! 日本ガラストロンクス …… 7
■エコ情報室 琵琶湖博物館 …… 5	■リレートーク 滋賀富士通ソフトウェア …… 8
■会員からのお知らせコーナー …… 5	■編集後記 …… 8

Report1 グリーン購入フォーラム2010in滋賀

「グリーン市場を創る、持続可能な企業とは」

◆開催日:2010年10月22日(金)「びわ湖環境ビジネスメッセ」同時開催
◆参加者:136人 ◆会場:長浜バイオ大学 命北館 中講義室6

■基調講演「サステナブルな企業と倫理的市場」

同志社大学 経済学部 教授 郡嶋 孝さん

■基調報告「2010年度「グリーン購入大賞」受賞事例」(4者、詳細後述)

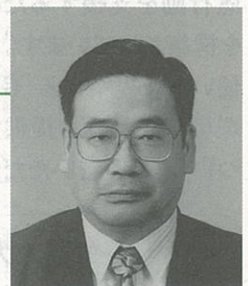
同志社大学、郡嶋孝教授による企業の環境活動を環境経済学の視点から見たお話と、第12回グリーン購入大賞受賞者からの事例報告とを通して、持続可能な企業のあり方について考えるセミナーを開催しました。



講演要旨

「サステナブルな企業と倫理的市場」

同志社大学 経済学部 教授 郡嶋 孝さん



倫理的市場の創出に向けてどのように考えていくべきか、企業、消費者、行政等がどうしなければならないのかについて、政策哲学的にお話したいと思います。

世界中の環境への取り組みを見ていきますと、日本の環境政策には閉塞感があるのではないかと感じます。先を見通すグランドビジョンが作られておらず、未だにCO₂削減に対する取り組みに対して国民の合意を得られていないことなどから、そう感じるのです。まずは国民全員が共有できるグランドビジョンというものの合意を目指さなければなりません。これには経済的、金銭的動機に基づいて動くというだけでなく、金銭的以外のものも重視して動いていかなければなりません。さらに政策客体である企業、消費者が環境問題をどうとらえ、どう取り組むかを考え、自らが主体者となっていかなければなりません。世の中やみんなが変われば、自分も変わるという姿勢ではなく、まず自分が変わろう、そうすればみんなも変わり、世の中が変わるという姿勢で取り組むことが重要なのです。

これからの環境企業は革新的取り組みをしていかなければなりません。自分たちの利益だけでなく、社会との

関係、社会への改革をどうコミットしていくのが求められます。GPNの活動としても、エコ商品の市場拡大だけではなく、商品が廃棄される際の回収から再利用に至るまでの仕組みづくりを行っていく必要があると考えています。

ヨーロッパでは環境に取り組むということは社会的な公正に含まれる概念だと捉えられています。滋賀県には「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」の考え方がありますが、これからは「環境よし、将来よし」を加えた、「五方よし」であることが求められてくるのではないのでしょうか。

個々の企業が地球環境問題に主体的に取り組み、それを共同で行い、消費者の信頼を得てエコブランディング化することによって取り組みの輪は相乗的に広がり、それが環境政策にかかるコストを下げることに繋がります。そうした意味でGPNの役割に期待されるところは大きいと考えています。

基調報告

「第12回グリーン購入大賞」受賞事例報告

グローバルでの生物多様性への
ハイブリッドな取り組み

特別部門(生物多様性の保全)「優秀賞」受賞/
シャープ株式会社

環境安全本部 環境企画推進部 係長 石田 孝宏さん

2009年「シャープ生物多様性イニシアチブ」を策定し、環境に配慮した「事業活動」と「社会貢献活動」のふたつの側面からアプローチをされておられます。独自の生物多様性チェックシートに基づいた定量評価と定性評価の展開や、全国に「シャープの森」を開設するなどの保全活動に加え、従業員と家族への環境意識の醸成を目的とした活動等について、ご報告いただきました。

お客さまのグリーン購入を支援する
新たな情報発信

大企業部門「大賞」受賞/
キャノンマーケティングジャパン株式会社

CSR推進本部 CSR企画推進部 部長 西尾 元雄さん

「つかう」に関する情報を強化し、お客様の環境配慮行動を支援するための新たな情報発信の仕組みを構築されています。グリーン購入や環境にやさしい使い方を提案する「GREEN NAVI」や、機種ごとの環境配慮情報を提供する「GREEN PROFILE」について、ご報告いただきました。

●グリーン購入大賞とは?

グリーン購入に関する先進事例を表彰し広く紹介することで、グリーン購入の取り組みの質的向上とさらなる普及・拡大を図ることを目的として、グリーン購入ネットワークが98年に創設した表彰制度です。滋賀県からも毎年受賞者が出ています。第12回では、CMや自社制作番組の企画枠で「買うならエコ!」とおきエコキャンペーンを展開された、びわ湖放送株式会社が「審査員奨励賞」を受賞されました。



★参加者からのメッセージ



日常の身近な存在である「タオル」を作っておられる池内タオル(株)の池内社長のお話には、温かみがあり、とても興味深く拝聴いたしました。もっと多くのお話を聞かせていただきたいと思います。フォーラム当日の夜、さっそく「風で織るタオル」を購入しました。

滋賀スバル自動車(株) 松井 良夫さん



講演を聴き、購入しようとする商品がどのように生産・運搬・販売・使用・廃棄されるものであるかという商品の一生を意識することが大事であると改めて感じました。私たちの活動においても、そのことをもっと啓発していきたいと思っています。

滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル
阪井 紗代さん

最大限の安全と
最小限の環境負荷

中小企業部門「大賞」受賞/池内タオル株式会社

代表取締役社長 池内 計司さん

2002年よりグリーン電力証書システムによって自社の使用電力の100%を風力発電でまかなわれています。「風で織るタオル」はバスタオル1枚で約473gの二酸化炭素を削減していることや、材料はピュアなオーガニックコットンを使用するなど、環境と安全へのこだわりについて、ご報告いただきました。

環境浄化技術「ハイドロテクト」を応用した
製品開発及び普及促進による
地球環境への貢献

「経済産業大臣賞」受賞/TOTO株式会社

環境建材事業部 主査 岩田 広長さん

独自の光触媒技術である「ハイドロテクト」を応用した建築塗料などの製品開発を行なわれています。これらの製品は、自然の力(太陽の光と雨)で外壁周辺のNOxを除去し、空気浄化することができるため、ライフサイクル全体では環境影響がマイナス(=環境貢献)になるといった特徴について、ご報告いただきました。

Report2

「びわ湖環境ビジネスメッセ
2010」出展

今年の「グリーン購入ひろば」は6団体が協働出展してくださり、にぎやかなブースとなりました。皆さんからのメッセージをご紹介します。



「グリーン購入ひろば」協働出展者メッセージ

■NPO法人 碧いびわ湖 村上 悟さん

「売る」ことに重点が置かれた展示が多い中、「買う」ことに重点を置いた滋賀GPNの展示は貴重だと思います。

来年は椅子を並べ、会員が取り組みを紹介するプレゼンコーナーをつくってはいかがでしょうか?



■(株)スマイ印刷 中川 邦潔さん

「ストーンペーパー」に印刷したポスターやカレンダーを展示しました。「この紙は、石で出来ていますよ!」と言いながら展示ブースの前を通る来場者に「ストーンペーパー」で出来た印刷物を渡すと、ほとんどの方が足を止め、展示品にも目を向けてくださいました。



■おつ環境フォーラム EMSプロジェクト 島戸 俊彦さん

取得にかかる費用が特に安く、人手がかからない等多くのメリットから、主に中小企業様で実績が多い「KES環境マネジメントシステム」を紹介しました。この程、滋賀県の入札参加資格の加点对象に加えられたこともあって、多くの方の熱心な質問や関心を集めました。



■高畑産業(株) 石元 泰啓さん

弊社は、月々の電気料金削減額より安く導入することが出来、トータルでとってもお得なLED蛍光灯「Tレンタル」をPRさせて頂きました。早速、ご来場いただいたお客様の工場に導入をして頂くことになりました。本当に有難うございました。



■滋賀県産間伐材 有効利用促進グループ 中田 亘さん

今回は、企業・団体様に活用していただけるエコグッズの使用提案をコンセプトに、従来の間伐材製品に加えジグソーパズルなどに、滋賀GPNのキャラクター「エコペン」をプリントして統一感のある展示を試みました。出展の機会が、新しい商品を開発する動機にもなり、年間の活動目標にもなっています。



■(有)ワイエス商事 中野 彰三さん

昨年に引き続き弊社の植物、特に琵琶湖のヨシを中心にモミ・スギ・松等の原料を使用したバイオマスプラスチック(商品名 恵湖時代 箸・食器・トレーなど)を紹介し、国内の草木の有効利用の必要性をアピールできたと思います。他ブースで、環境貢献を製品開発で具現化できるかを提案されている様子を意味深く感じた催でした。

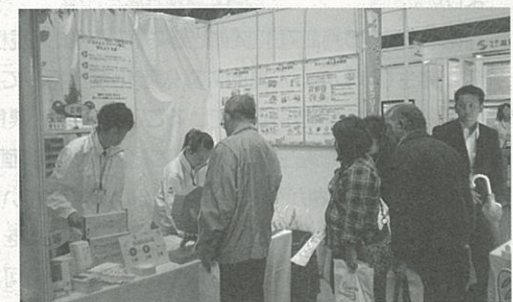


【滋賀GPNスタンプ&クイズラリー】

メッセ出展の会員ブースをつなぐ「滋賀GPNスタンプ&クイズラリー」、今回は12の会員団体に参加いただきました。今年はウッドワーク滋賀 堤木工所さんから、ご寄付いただいた間伐材の卓上フラッグを参加ブースに設置させていただき、スタンプ&クイズラリーをより盛り上げることができました。ラリーのゴールとなる抽選会場には、今年も多くの会員の皆さんにスタッフとしてご協力いただきました。ありがとうございました。

■スタンプ&クイズラリー参加団体

(財)淡海環境保全財団、大阪ガス(株)滋賀事業所、大西電子(株)、関西電力(株)滋賀支店、木村電工(株)、(株)滋賀銀行、(株)しがぎん経済文化センター、上西産業(株)、日本観光開発(株)、日本ソフト開発(株)、(株)平和堂、(株)丸亀製菓所、(株)山久、滋賀県 会計管理局管理課、滋賀県 循環社会推進課、滋賀県 農業経営課



Report3 グリーン購入セミナーin琵琶湖博物館

●開催日:2010年11月16日(火) ●参加者:42名
●会場:琵琶湖博物館 1階 セミナー室

■基調講演

「琵琶湖の水と生物の現状」

琵琶湖博物館 専門学芸員 芳賀 裕樹さん

「琵琶湖・地球の未来と滋賀の企業」

財団法人 国際湖沼環境委員会 事務局長 加賀爪 敏明さん

「地域活性化による地元貢献と地産地消への取組」

株式会社日吉 総務部 総務課 システム改善係 係長 梶田 由胤さん

博物館見学「びわ湖新発見」ツアー!

- ・びわ湖のおいたちを知ろう!
- ・びわ湖の歴史と、人の暮らしの歴史を知ろう!
- ・ここに住む生き物たちを知ろう!

琵琶湖の生態系の現状と、琵琶湖から始まったグリーン購入にまつわる活動をご紹介します。セミナーを開催しました。館内を琵琶湖博物館学芸員の方にご案内いただき、琵琶湖博物館の魅力や「企業研修」としての活用方法についてもご紹介いただきました。ご参加いただいた方々も琵琶湖博物館の魅力を再発見された様子でした。



▲セミナーの様子



▲館内見学の様子

「グリーン購入が琵琶湖を救った」

財団法人 国際湖沼環境委員会 事務局長 加賀爪 敏明さん

37年間、環境行政一筋の県庁を退職、国際湖沼環境委員会の事務局長を勤めさせていただいています。現在、滋賀県は環境行政に力を入れている県として知られ、また、国際的にも琵琶湖は水質保全対策のモデル湖沼として有名です。

しかし、約40年前において状況は大きく違っていました。琵琶湖総合開発計画に象徴されるように、当時県行政の基調は開発志向でした。また、公害行政草創期の行政と事業者の関係は、例えば良くありませんが、警察と泥棒のような取り締まる側と取り締まられる側といった関係に近いものでした。その後、事業者の皆様の努力と厳格かつ丹念な指導を続けることにより、廃水処理などの確実な改善をみることができました。

昭和52年5月27日、突如として琵琶湖に大規模な淡水赤潮が発生しました。人為的に富栄養化が進行して、琵琶湖生態系に深刻な異変が起きていることを雄弁に県民に伝えました。私も水質調査船で変わり果てた琵琶湖の湖面を見て「このままでは琵琶湖が死ぬ」と感じたのを覚えています。赤潮の発生が県の富栄養化防止対策の検討に拍車をかけ、私たちは工場の窒素、リンの排水規制による削減の可能性、その効果予測などを進めました。琵琶湖への流入負荷の削減は窒素については必要な削減量の確保ができるが、リンについては工場排水の規制のみでは削減量が不足することがわかり、

大きな壁にぶつかりました。そのとき、当時の武村知事から、リンを含む家庭用合成洗剤規制のアドバイスがありました。これを実施すればリンの必要な削減量を確保できることから、条例案に組み込まれました。主婦層を中心とした、せっけん使用推進運動など県民の理解と事業者の大きな努力により、琵琶湖富栄養化防止条例はきわめて円滑に施行されました。その結果、直ちに河川のリン濃度は低下し、やや遅れて琵琶湖水のリン濃度も減少していきました。

滋賀県民が一体となって、かけがえのない琵琶湖の環境保全に挑戦し、成功した体験の共有、これがその後の県政の針路を大きく環境重視に変えていくこととなりました。条例による規制という形で強制的ではありませんでしたが、環境に大きな影響を及ぼす製品を使用しないというグリーン購入が琵琶湖を守ったことになりました。

そして、懸命に公害規制への対応を図る、琵琶湖の富栄養化対策に貢献するという積み重ねが、県下の企業に環境志向のDNAをつないできたのではないのでしょうか。滋賀県でのグリーン購入ネットワークへの参加率が国内で例を見ない高さであること、滋賀GPNの活動が不思議なほど熱いのもこのDNAによるものかもしれません。

エコ情報室
「観る」だけじゃない、琵琶湖博物館の使い方琵琶湖博物館 事業部展示グループGL
芳賀 裕樹さん(専門学芸員)

県民の皆様をはじめ多くの方たちに支えられ、おかげさまで琵琶湖博物館も開館14年目を迎え、これまで700万人以上の方々にご利用いただきました。今後も学習の場として、あるいは交流の場として皆様にさまざまなサービスを提供していきたいと考えています。さて、博物館といえばやはり展示を観て楽しむのが主な利用方法ですが、今回はそれ以外の利用方法についてご紹介したいと思います。

★学習会や研修での利用

当館は展示のほかに、ホール(約250名収容)、セミナー室(約60名収容)、2つの実習室(各30名収容)を持ち、様々な学習の機会を提供させていただいています。これらの施設では、当館が企画するシンポジウムや講座、体験教室のほかに、学校や市民グループ、企業などさまざまな団体の依頼で、当館の学芸員が講師として参加する学習会や研修会も開かれています。

当館には33名の学芸員(平成22年12月現在)がおり、各自が異なる研究分野を受け持っていますので、希望される課題にあわせて話題を提供することができます。学習会や研修会の申込は当館の交流センターという部署で受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

各学芸員の研究分野はホームページでご確認ください。
<http://www.lbm.go.jp/researcher/gakugeiin.html>

★ちょっとした調べものや、専門的な質問をしたいときは

館内には図書室や質問コーナーもございます。質問コーナーには日替わりで学芸員が待機し、専門的な質問にもお答えしています。学芸員の当番表は博物館ホームページの

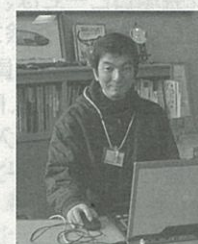
トップページ右側「イベントカレンダー&質問コーナー」で確認できます。

★自分たちの活動を展開するための情報がほしい

「自分たちで研修をしたいが、なにかいい教材はないか」「琵琶湖博物館以外にどんな施設が使えるか」「CSR活動で地域貢献をしたいけれど、どこに話を持っていけばいいのか」等の相談は、環境学習センターで承っています。環境学習センターの情報は環境学習ウェブサイト「エコロし〜が」でご覧いただけます。

●エコロし〜が <http://www.ecoloshiga.jp/>

●環境学習センター TEL:077-568-4818



〈アクセス〉

滋賀県立琵琶湖博物館
草津市下物町1091番地
TEL:077-568-4811 FAX:077-568-4850
JR琵琶湖線草津駅より近江鉄道バス、
烏丸下物線烏丸半島行きにて約25分

会員からのお知らせコーナー

家庭の「省エネ診断」します!(無料)



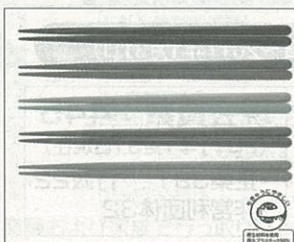
ご家庭または集会所を訪問し、環境・エネルギーの専門家である「省エネ診断員」が、パソコンを駆使して「家庭の省エネ診断」を行います。
1.ご家庭の「どこから・どれだけCO₂が出ているか」を分析し、平均的な家庭との比較等を通じ、「あなたの家のエコロジ度」を判定します。
2.診断結果をもとに、あなたの家にぴったりの「オー

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

ゲーム型「省エネ対策」をご提案します。
3.省エネ対策を実施した場合の、「光熱費の削減額」や「費用対効果」をわかりやすく示します。
＜お問合せ＞
(財) 淡海環境保全財団
滋賀県地球温暖化防止活動推進センター
大津市松本1-2-1 TEL:077-524-7168

パブリック六角箸(強化R-PBT樹脂製)

(株)サンコー製作所



PETボトルを化学的に再利用(ケミカルリサイクル)してできた強化R-PBT製の箸です。「PET」を「PBT」に「アップサイクル」しているため、純正原料を使ったPBT箸と同等の性能・強度・耐久性のある環境に優しい箸です。原料生産時のCO₂排出量は、純正PBTと比較して、60%の軽減が確認されています。箸の手元部分は持ちやすい六角形、先端部分は滑りにくいシボ加工(特殊な凹凸加工)を施し、食器洗浄機、

消毒保管庫の使用にも対応しています。
サイズ:①180mm②195mm③210mm④220mm 計4サイズ
カラー:黒、赤、ベージュ、パープル、グリーン 計5色
※商品サンプル、価格等につきましては弊社までお問い合わせいただけますようお願いいたします。
＜お問合せ＞ (株)サンコー製作所
長浜市一の宮町4-41 TEL:0749-62-4160

Report4

グリーン購入講演会in甲賀 ～地球温暖化と低炭素社会への選択～

●開催日:2010年9月7日(火) ●参加者:211名 ●会場:碧水ホール

■基調報告 「地球温暖化と低炭素社会への選択」～温暖化回避のための社会の大転換～

東京大学名誉教授
国際グリーン購入ネットワーク会長 山本 良一さん

地球温暖化の現状を学び、自分たちにできることを皆さんと一緒に考えるため、山本教授をお招きして、世界的な政策や企業活動の動向を含む、地球温暖化に関する最新の話題を伺う講演会を開催いたしました。

会場ロビーでは、パネル展示と地球温暖化について楽しく学べる「体験コーナー」を設置し、滋賀県地球温暖化防止活動推進員の皆さんに説明員としてご協力いただきました。また、同時に「グリーン購入啓発パネル展」と「グリーン購入クイズラリー」を実施して、参加者の皆さんに「グリーン購入」についての理解促進を図りました。



▲クイズラリーの様子



▲山本教授の講演

Report5

グリーン購入シンポジウムin滋賀 ～持続可能な社会を目指す、私たちの挑戦～

●開催日:2010年12月10日(金) ●参加者:111名 ●会場:ピアザ淡海 3階 大会議室

■基調講演 「地球温暖化を防止する、企業と消費者の選択」

東京都市大学 大学院環境情報学研究所 教授
グリーン購入ネットワーク会長 中原 秀樹さん

■基調報告 「滋賀県の温暖化防止政策」 滋賀県 温暖化対策課 課長 杉江 弘行さん

■参加型フロアトーク／

●パネリスト : パナソニック株式会社 ホームアプライアンス社 環境推進グループ
グループマネージャー 脇 浩史さん

株式会社 平和堂 環境推進室 室長 西塚 哲夫さん

日本ガラスロニクス株式会社 代表取締役副社長 桂 慶全さん

株式会社 沢田商店 代表取締役社長 沢田 昌宏さん

NPO法人 碧いびわ湖 代表理事 村上 悟さん

●コメンテーター : 中原 秀樹さん

●コーディネーター: 滋賀GPN代表幹事 土屋 正春



▲中原教授の講演

地球温暖化対策を消費行動から、参加者全員で考えるシンポジウムを開催しました。中原教授には、企業が消費者に対して環境情報を提供することの必要性などについてご講演いただき、また滋賀県温暖化対策課からは2010年度中に発表を予定している滋賀県の温暖化防止に関する条例や行程表についての具体的な事項を説明していただきました。参加型フロアトークでは、パネリストの5名に事例報告をお願いし、会場からは熱心な意見が飛び交いました。また参加者全員への質問に色紙を使って回答していただく場面では、会場全体に一体感が生まれました。

新規入会会員 (2010年8月1日～2011年1月31日)

びわこウッド事業(協)、(福)八身福祉会 八身共同印刷、吉村印刷所、日本ガラスロニクス(株)、(有)美鈴環境サービス、(株)太田種苗、観光交流企画室TAC、前出産業(株)、(有)北川自動車工業

現会員数: 445

(2011年1月31日現在)

・企業391 ・行政22
・非営利団体32



▲参加型フロアトークの様子

エコに学べ! ●

環境は未来からの預かり物

日本ガラスロニクス(株)
代表取締役 桂 賢さん



当社は管ガラスの切断加工から起業し、その技術を応用・発展させたCRTシステム、液晶バックライト管の生産を通じて、国内だけでなく世界へと販路を伸ばして参りました。

そして今、時代の転換点から環境負荷低減に役立つ「エコソリューション」をキーワードに、省エネ照明の販売などの環境成長型企業への道を歩み始めました。

当社は「環境は未来からの預かり物」という想いを全従業員が共有し、企業活動としてだけでなく、社員一人ひとり、またその家族も含めた個人レベルの活動として地球環境保全に取り組んでいます。

■全員参加での「ボトリ活動」

ISO14001の取り組みの一環として、2007年8月からチームマイナス6%への参加と同時に、ボトリ活動と呼ばれる当社独自の環境保全活動をスタートさせました。ボトリ活動とは、「ハチドリ」のひとしずく」の物語を元に、CO₂100gを減らすための「ひとしずく(行動)」を「1ボトリ」と呼び、自己採点表を使って一日の生活の中で実践できた行動をボトリ換算し集めます。温暖化を他人にするのではなく、一人ひとりが少しずつでも生活習慣を見直そう、身近で今すぐ出来るCO₂削減に取り組もう、という思いから始めた活動です。従業員のみなならずその家族の普段の生活までも対象としています。そして、貯まったボトリは環境に配慮したエコ商品(鉢植えセットや、売上の一部を植樹にあてる“エコな傘”等、低炭素社会の実現につながる商品)と交換することができます。このボトリ活動では、グリーン購入の基本的な取り組みである地元産の食材を購入する地産地消、車を使わずに歩いて買い物に行く、マイバックの促進、節水や節電を心がける、等「家庭でできるエコ活動」がすべてボトリ換算

されています。

「CO₂」ではなく、「ボトリ」というイメージしやすい名称にすることにより、誰もが取り組みやすい活動となりました。個人や家族の活動により獲得した「ボトリ」をエコ商品に交換できる「マイレージシステム」を導入したことにより、従来の環境保全活動よりも活発な活動となりました。さらにボトリ自己採点表やマイレージシステム景品のバージョンアップを重ねることでマンネリ防止を図り、年々ボトリ数は上昇傾向にあります。スタートの2007年8月から2010年12月末まで、241.4t(トン)ものCO₂削減効果を出しております。

この活動は、草津市の「2010年度地球温暖化防止大賞 優秀賞」、「平成22年度(公益社団法人)滋賀県環境保全協会会長表彰(環境保全優良事業所の部)」を受賞し、その取り組みのユニークさとCO₂排出量の大幅な削減実績で高い評価を頂いております。この活動を通じ、社員の意識改革が行われ、環境への意識が格段に高くなりました。そして、社員が自発的に考えるようになり、様々な提案が活発に出るきっかけとなっています。さらに全員で取り組んでいるという“一体感”も生まれ、環境分野への進出(エコ商品販売)の下地をつくることができました。

■次世代型省エネ照明「CCFL」

そして生まれたのが、液晶バックライト管を照明に利用した、長寿命で省エネに貢献できる「CCFL照明機器」です。この照明は、LEDと同等の省エネ・長寿命で、さらに導入費用が抑えられるというメリットがあります。この



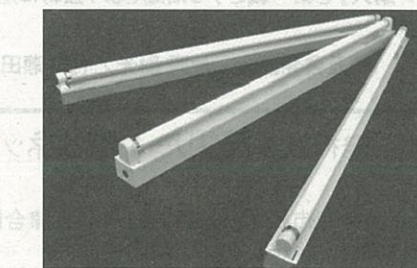
▲「CCFL照明」が第1回しが低炭素リーダー賞(低炭素化事業部門)を受賞

照明機器の開発に対して、滋賀エコ・エコノミープロジェクト(しが炭素基金)「第1回しが低炭素リーダー賞(低炭素化事業部門)」を受賞する等、高い評価を頂いております。現在も販売数を伸ばし、導入決定企業様数113社(2010年12月末時点)で、販売開始の2009年10月から2010年12月末で、約132.7t(トン)ものCO₂削減効果を出しております。

「ボトリ活動」を携帯電話で手軽にできる「ボトリケータイ」の開発支援及び販売促進、「CCFL照明機器」その他の省エネ商材の販売促進等、現在も環境保全活動を進化させようと更なる活動をしております。またそれ以外の活動として、「草津市地球冷やしたいプロジェクト」の一環である「電動アシスト自転車無料貸出」を利用した、マイカー通勤から自転車通勤に替えるエコ通勤活動、生物多様性保全活動への積極的な活動等、さらにその環境保全活動の環を今後も広げていきます。

〈お問合せ〉

日本ガラスロニクス(株)
統括管理部
草津市南笠東3丁目22番97号
TEL:077-564-4740



▲次世代型省エネ照明「CCFL」

ボトリ活動		内容見直し項目	
活動の種類	取組内容	単位	ボトリ換算値
交通手段	運転時の停車中にアイドリングをストップする	1分	2.0
	自転車の代わりに電車を利用する(乗車料:100円以上は200円以上と見做す)	1km	3.0
	車に乗らずに自転車や歩行で移動する	1km	4.0
	自転車の代わりに徒歩・バイクを利用する	1km	2.0
	自転車の運転中、エプソンを使わない	1回	4.5
	環境配慮型の省エネ車種に買い換える	1回	200.0
	ディーゼル仕様の車種に換える	1回	0.5
	高速道路を利用し、高質の良質ドライブを心掛ける	1回	2.0
	出張時、社用車を使わず、公共交通機関を利用する	1往復	20.0
	エレベーターを使わず、歩いて階段を昇降する	1回	1.5
その他	急激な急降、急上昇を避ける	1回	2.0
	生ゴミを肥料として使用する	1回	1.0

▲各従業員および家族で行う取り組み活動を項目化

リレー・トーク Relay Talk

「だから今、グリーン購入」

ITで「低炭素社会」の実現を目指す

(株)滋賀富士通ソフトウェア
代表取締役社長 佐藤 由樹さん



(株)滋賀富士通ソフトウェアは、1984年に富士通(株)と(株)滋賀銀行の共同出資により、金融業界をお客様とする専門のシステムエンジニアリング会社として設立されました。現在では、金融分野だけでなく、自治体や医療機関向けにも業務を展開し、さらに専門ノウハウを活かした業務パッケージソフトの開発、全国規模の販売等も行っており、多様な業界各社様との取引実績を積み重ねています。

当社は、富士通グループの環境方針に則り、滋賀銀行の環境活動とも歩調を合わせて、ITを通じてお客様や社会の環境負荷低減に貢献してきました。例えば、消

費電力の少ないコンピュータの導入による省電力化、帳票の電子化や電子申請の実現によるペーパーレス化(紙の消費、移動、保管スペースの削減)、ネットワークを使った研修(e-learning)による人の移動の削減(CO₂削減)等々です。

また、県内の環境保全活動にも積極的に参加しており、大津市が主催する「琵琶湖を美しくする運動」に7年間、「大津市民ヨシ刈り」に7年間継続して参加しています。オフィスの中では、紙や文房具などのオフィス用品から資材に至るまで、環境に配慮した製品を優先して購入するグリーン調達を推進していますし、夏期のクールビズや冬期のウォームビズの実施、コピー用紙使用量削減の取組みとして両面や複数ページ印刷の推奨、休み時間中の消灯からゴミの分別回収などを地道に実施しています。グリーン購入ネットワーク主催の講演会にも積極的に参加し、私たちが直面している環境問題を理解することはもちろん、他の企業の取組みの

中から自分たちにもできるものを取り入れようと努力しています。

社員200名規模の小さな会社ではありますが、「私たちが何かやらなければ」という思いで行動しております。琵琶湖を抱える滋賀県に本拠を置く企業として、今後も「低炭素社会」の実現を目指して地域社会に貢献していきたいと考えています。



▲「琵琶湖を美しくする運動」への参加



▲「大津市民ヨシ刈り」への参加

今回は、(株)エスサーフさんをお願いします。

(株)滋賀富士通ソフトウェア
大津市中央2丁目2番6号 明治安田生命 大津ビル
TEL:077-525-1127

編集後記

2010年はエコポイント、エコカー減税で景気が浮揚した「エコの年」であったのかもしれませんが。(反動もあるでしょうが)

最近の薄型テレビは格好いいですねえ。でもこれらは画面が大きいほど値段も高く、また消費電力も大きいのだそうです。エコポイントを期待して買い換えた大型テレビは、消費電力も大きくなってたりして。むしろ小型でがまんした人にエコポイントが多くもらえるよう仕組むべきではなかったのでしょうか?エコカー減税も同様。極端な話、車を購入した人ではなく、購入を見送った人や、そもそも車を持たない人こそ減税されるべきでは?

「Economy(経済の)」のエコと「Ecology(エコロジー)」のエコを都合により差し替えているようではエコビジネスは何でも疑わしいと感じるのは私だけでしょうか。

日本も大量消費で経済活動を支える社会から、いち早く脱却しなければ「環境立国」となる日も遠いことでしょう。ここはグリーン購入の意識の高い我々こそが原点に立ち返り、「買わないグリーン購入」を第一義とする活動をより強靱に進めるべきでありましょう。

(普及啓発部会 片岡 耐光/(株)瀬田アーバンホテル)

今年度から新たに研修部会が発足、初年度の2010年は、国の緊急雇用対策事業を滋賀県を通じて滋賀GPNが受託したこともあって、このニュースレターに掲載したように例年にも増して多くのセミナーやシンポジウムなどを開催させていただく「研修の年」となり、また、名古屋では「COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)」が開催されたことから、生物多様性をテーマにした研修もいくつか開催しましたが、いかがだったでしょうか。個人的には(株)日吉さんが取り組まれている沖島の活性化への取り組みがとても心に響き、沖島には約30年ぶりに3度も足を運んで勉強させていただきました。この取り組みは生物多様性と地域活性化を組み合わせたものですが、最近はこのように環境だけでなく社会貢献などCSRにまで広げた取り組みを多くの企業が行われています。

研修部会では、今後もグリーン購入という切り口で会員の皆さんのお役に立つような情報を提供すべく、皆さんの忌憚のないご意見を頂戴して来年度の研修に生かしてまいりたいと考えておりますので、是非、事務局の方までご意見をお寄せください。

(研修部会リーダー 松宮 秀典/旭化成化工(株)本社滋賀工場)

編集・発行/滋賀グリーン購入ネットワーク

〒520-0807

滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎6階

TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:http://www.shigagpn.gr.jp/



このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。